

授業科目名	アカデミック・コミュニケーション 1-伝えるための基礎-		
科目番号	1G10011	単位数	1.0 単位
標準履修年次	3・4 年次	時間割	春 AB 月 2
担当教員	野村 港二		
授業概要	これから、論文執筆や口頭発表の機会が増えるみなさんと、単なる発表のテクニックではなく、専門的な学問の内容を伝える際に必要なことは何かを一緒に考えます。論拠を持って、事実と意見を分けて、時には気持ちをこめて、伝えるためには、どんな準備が必要なのでしょう。		
備考	(資源開設) 平成 23 年度までの「テクニカルライティング」、および平成 26 年度以前に総合科目 II の 1C10081 アカデミック・コミュニケーション 1、1C10091 アカデミック・コミュニケーション 2 の単位を取得した学生の履修は認めない。【受入上限数 120 名】		
授業形態	講義		
科目群	G		
水準・区分			
教育目的	大学は、レポートや論文などの書き物、セミナーや学会での発表などのプレゼンテーション、研究室内外での様々な議論や討論などを通して、学術的な内容でのコミュニケーションを行う場と考える事もできます。そこで、科学や事実を伝えるために必要な考え方、考えたり伝えたりすることとはどのような事なのかを探ります。また、気持ちよく伝えるために役立つスキルについても解説します。		
到達目標	1 学問的内容を伝えるための基本を理解する。 2 コミュニケーションスキルを習得する 3 分かり易く伝えるための方法を習得する		
キーワード	表現, コミュニケーションスキル		
各回授業計画	<p>第 1 回【4 月 15 日 野村港二 生命環境系】 [事実を伝える、科学を伝える] 伝えたいのはデータだけですか、データに基づくインフォメーションですか。データとインフォメーションについて考えます。</p> <hr/> <p>第 2 回【4 月 22 日 掛谷英紀 システム情報系】 [学問とは何か、科学とは何か] 科学と似非科学の境界を定義づけることで、学問に携わる者が守るべきルールを論じます。</p> <hr/> <p>第 3 回【5 月 9 日月曜振替えの木曜掛谷英紀 システム情報系】 [様々な知識の融合] 現実社会における複合的な問題に対して、種々の専門分野に細分化された学問の知見をどう生かしていくかを考えます。</p> <hr/> <p>第 4 回【5 月 13 日 野村港二 生命環境系】 [発想法] 今学期の講義では、伝えるための方法や、そもそも伝えるとはどのような事なのかを考えます。第一回は、考えを言葉にしてまとめることに焦点をあてます。</p> <hr/> <p>第 5 回【5 月 20 日 野村港二 生命環境系】 [推敲と校正] 文章は、推敲することによって完成します。そして、推敲には柔軟な発想が役に立ちます。実際に文章を推敲し、校正する実習を通して、文章作成術の向上を目指します。</p> <hr/> <p>第 6 回【5 月 27 日 佐々木銀河 人間系】 [障害とミスコミュニケーション] 私たちは、いわゆる「話の通じやすい人」から「話の通じにくい人」まで、多様な特性を有する聴衆に対してコミュニケーションを行うことが常に求められている。本講義では、「障害」という切り口から、私たちのミスコミュニケーションが起きる理由を考える。特に、コミュニケーションの発達障害である自閉スペクトラム症の特性に焦点を当て、コミュニケーションにおける伝え手と聞き手の意図の伝達について講義する。</p> <hr/> <p>第 7 回【6 月 3 日 宮崎明世 体育系】 [動きを伝える、教える] 動きを人に伝えるのは難しいもの。体育の授業では「運動を人に伝える」ことが大切な要素になる。教科教育の視点から「伝える」を考える。</p> <hr/> <p>第 8 回【6 月 10 日 森山裕充 東京農工大学】(非常勤) [聞き手を納得させるには] プレゼンテーションの目的は、聞き手を納得させることです。ケーススタディにより様々な場面や状況を想定したプレゼン方法について考えます。</p> <hr/> <p>第 9 回【6 月 17 日 重松篤美】(非常勤) [コミュニケーション・スタイル] 幾つかのコミュニケーション・スタイルを例として、自分のスタイル・他の人のスタイルを探り、より良いコミュニケーション手法を考えてみましょう。</p>		

	<p>第 10 回【6 月 24 日 重松篤美】(非常勤) [ビジネス社会に於けるコミュニケーション例] ビジネス社会に於ける特異なコミュニケーション形態を、幾つかの実例を見ながら学びます。</p> <hr/> <p>第 11 回【7 月 1 日】 期末試験</p>
履修条件	アカデミックコミュニケーション 2 を履修する事が望ましい
成績評価方法	A 期末試験 (70%) B 授業中の質問など積極的な発言 (30%) 出席率 70% 以上であること
授業外における学習方法	教室で学んだ事を実践すること
教材・参考文献	1. 1. 1. 野村港二編 研究者・学生のためのテクニカルライティング みみずく舎・医学評論社 2003
オフィスアワー・連絡先	月曜 3 限 生物農林学系棟 B722 nomura.koji.gb at u.tsukuba.ac.jp
履修者へのメッセージ	なし

授業科目名	アカデミック・コミュニケーション 2-伝えるための基礎-		
科目番号	1G10021	単位数	1.0 単位
標準履修年次	3・4 年次	時間割	秋 AB 月 2
担当教員	野村 港二		
授業概要	口頭発表の原稿と、論文の原稿は、どのように書き分けるべきでしょうか。スライドやポスターなどの効果的なデザインとはどのようなものでしょうか。そして、そもそも伝わり、分かるとは、生理学的にはどのような脳の活動なのでしょう。この講義では、専門的な内容を誰にでも伝わるように発信するという、高学年生に必要な考え方と方法を紹介します。		
備考	(資源開設) 平成 23 年度までの「テクニカルライティング」、および平成 26 年度以前に総合科目 II の 1C10081 アカデミック・コミュニケーション 1、1C10091 アカデミック・コミュニケーション 2 の単位を取得した学生の履修は認めない。【受入上限数 120 名】		
授業形態	講義		
科目群	G		
水準・区分			
教育目的	学問の世界では、事実や概念、意見などが正しく伝わるのが大切です。文章やスピーチ、図や写真などを効果的に使って、発信者の意図が的確に伝わるために考えるべきことと、方法を修得します。また気持ちよく伝えるための心理学の知識、そもそも伝わり、分かるとはどういうことかという脳科学の知識を学びます。		
到達目標	1 専門的な内容を伝えるコミュニケーション方法を具体的に知る 2 専門家同士が、その専門を超えて協働することの重要性を知る 3 さまざまな場面での伝え方の基本を知る		
キーワード	文字と絵, 書き言葉と話し言葉, 脳の機能		
各回授業計画	<p>第 1 回【10 月 7 日 野村港二 生命環境系】 [一通りに伝える] 研究の場面では、内容がぶれないように伝えることが大切です。一通りに伝えるためには、どんな配慮が必要なのでしょう。</p> <hr/> <p>第 2 回【10 月 18 日月曜振替の金曜 野村港二 生命環境系】 [文字と絵] 私たちが伝えるために使う言葉、文字、絵にはどのような特性があるのでしょうか。また、伝えるための道具は、これらだけなのでしょう。</p> <hr/> <p>第 3 回【10 月 21 日 野村港二 生命環境系】 [発表のテクニック] 口頭発表とポスター発表の相違点、スライドやポスターのレイアウトの基本、ユニバーサルデザインの発想に基づいた伝わりやすい資料作りや原稿作りなど、発表テクニックの基本を考えます。</p> <hr/> <p>第 4 回【10 月 28 日 野村港二 生命環境系】 [ストーリーで伝える] 近年、マンガで描かれた参考書をよく見かけるといいます。マンガのように、ストーリーに基づいて伝えることで、ひとつひとつの事柄の間の関係や流れが分かり易くなることもあることを紹介します。</p> <hr/> <p>第 5 回【11 月 6 日月曜振替の水曜】 [出版のプロセス] 出版では、多くの人に関わることで、内容の質を高め、伝わり易く魅力的な本が完成します。そこで、出版のプロセスやレイアウトデザインなどについて紹介します。</p> <hr/> <p>第 6 回【11 月 18 日 佐々木銀河 人間系】 [脳の多様性とコミュニケーション] 発達障害など先天的な障害のある方の中には、聴覚優位や視覚優位など特定の情報処理形式の優位性が見られる場合がある。しかし、発達障害は定型発達からのスペクトラム(連続体)における操作的区分であり、誰も多様な脳特性を有している(ニューロダイバーシティ)という考え方が主流になりつつある。本講義では、脳の多様性に関する概論を踏まえ、ヒトの多様な認知・感覚特性に応じたコミュニケーション方法について考える。</p> <hr/> <p>第 7 回【11 月 25 日 池田潤 人文社会系】 [伝える言葉とは] 音声言語と文字言語の違いを手がかりとして、テリトリーを超えて伝える言葉とは何かについてともに考えます。</p> <hr/> <p>第 8 回【12 月 2 日 袈岩奈々 心理カウンセラー】(非常勤) [伝えたいこと、伝えること、そして伝わること] コミュニケーションには送り手と受け手がありますが、相手に思い通りに伝える事を阻む、いくつかの障壁があります。伝えたいことを明確化、言語化するまでを中心に講義します。</p>		

	<p>第 9 回【12 月 9 日 杉野一行 つくば国際大学】(非常勤) [伝わる事の生理学] 様々な情報が受容され認知される脳の仕組みについて。</p> <hr/> <p>第 10 回【12 月 16 日 杉野一行 つくば国際大学】(非常勤) [分ることの生理学] 伝えられた情報を理解し、それが「腑に落ちる」脳の仕組みについて</p> <hr/> <p>第 11 回【12 月 23 日】 期末試験</p>
履修条件	アカデミックコミュニケーション 1 を履修する事が望ましい
成績評価方法	A 期末試験 (70%) B 授業中の質問など積極的な発言 (30%) 出席率 70% 以上であること
授業外における 学習方法	教室で学んだ事を実践すること
教材・参考文献	1. 1. 野村港二編 研究者・学生のためのテクニカルライティング みみずく舎・医学評論社 2003
オフィスア ワー・連絡先	月曜 3 限 生物農林学系棟 B722 nomura.koji.gb at u.tsukuba.ac.jp
履修者へのメッ セージ	なし

授業科目名	グローバルリーダー養成講座		
科目番号	1G24014	単位数	1.0 単位
標準履修年次	3・4 年次	時間割	春 AB 火 5
担当教員	竹村 富士徳		
授業概要	<p>自分の価値観や自分軸を演習やワークを通して再発見し、自分の人生の目的を考えた上で大学での目標を設定する。その目標達成のための重要事項と考え、それらを優先した計画立案を行う。さらには、人との信頼関係の構築の仕方、相手を理解することの大切さについて、ロールプレイなどを通して体得し、グローバルに相乗効果を発揮することを考え、自分が目指すべきグローバルリーダー像について整理し、理解を深める。・文化や慣習の違いの仕組み、価値観や信念形成の仕組みについて理解する。また、空間や時間概念、思考概念などが、アジア諸国、アメリカ、イスラム教圏の国と比較し、どのように違うか認識を深める。</p>		
備考	(体育開設)【受入上限数 120 名】		
授業形態	講義及び演習		
科目群	G		
水準・区分			
教育目的	<p>自分の価値観や自分軸を演習やワークを通して再発見し、自分の人生の目的を考えた上で大学での目標を設定する。その目標達成のための重要事項と考え、それらを優先した計画立案を行う。さらには、人との信頼関係の構築の仕方、相手を理解することの大切さについて、ロールプレイなどを通して体得し、グローバルに相乗効果を発揮することを考え、自分が目指すべきグローバルリーダー像について整理し、理解を深める。 グローバルスキルについても、文化や慣習の違い、価値観や信念形成の仕組みについて理解し、空間や時間概念、思考概念などが、アジア諸国、アメリカ、イスラム教圏の国と比較し、どのように違うか認識を深める。 考えるための素材として、全世界の企業でリーダーシップ研修等で多く活用されている「7つの習慣」を活用する。</p>		
到達目標	<p>授業を通して、グローバルリーダーとしてふさわしい、以下のようなマインドセットが大切であることを理解する。 まず、自分の価値観をしっかりと整理して自分軸を持ち、人生の目的、自分の目標やその目標に対する計画の実行を行える状態になること。(それができなければ、世界に出て自分が何者か、何を目指しているか軸がぶれ、グローバルに戦うことができない。) そのうえで、相手にとっても自分にとっても望むべき結果が何であるかを理解し、相手について十分理解する。自分の強み、相手の強みを生かし、相乗効果を発揮できるようになる。(例えば、自分が日本人としての強みを生かし、現地国ならではの特質を生かした商品づくりを行う等。)</p>		
キーワード	主体的, 協働的, リーダーシップ, 人格主義, グローバルマインド		
各回授業計画	<p>第1回【4月16日】 [7つの習慣 基礎原則 人によって異なるものの見方] ・自分が考えるグローバル人材について話し合う。 ・グローバルに活躍する上で必要な原則について学ぶ。(インサイドアウト、SDG サイクル、パラダイム) ・グローバルに活躍する上で、それぞれものの見方や考え方が異なり、ものの見方が変わると行動が変わり、結果が変わることを学ぶ。(パラダイム転換、自己制限パラダイム、効果性の原則)</p> <hr/> <p>第2回【4月23日】 同上</p> <hr/> <p>第3回【5月7日】 [第1の習慣 主体性を発揮する] ・グローバル社会で重要なことは自分の軸を持ち、自分自身の主体性を発揮することを学び、実感する。(刺激と反応、自覚・想像力・良心・自由意思、自己制限パラダイム) ・行動する前に結果を思い描くことの大切さを、演習を通して学ぶ。(知的創造と物的創造、目標を設定するメリット)</p> <hr/> <p>第4回【5月14日】 [第2の習慣 目的を持って始める。人生のミッションを作成する] ・グローバルという視点を持ちながら、残りの大学生活の送り方および大学卒業後の自分の理想について、自分の目標を設定する。(価値観の整理、ミッションステートメントの草案) ・留学希望者は、留学によって達成した目標を設定する。</p> <hr/> <p>第5回【5月28日】 [第3の習慣 大事なことを優先する・時間管理] ・前回の授業で自分の立てた目標に対して、効果的な計画を立て、時間の使い方を意識して行動することを学ぶ。(コンパスと時計、時間管理のマトリックス、大きな石・小さな石、週間計画、ミッションと役割) ・留学希望者は、留学時の目標に対して、効果的な計画、時間の使い方を具体的に考える。</p>		

第6回【6月4日】
 [7つの習慣 基礎原則 信頼残高]
 ・グローバル社会で通用する人間関係における信頼の築き方、その基準について学ぶ。(自己の信頼性と信頼、信頼残高)

第7回【6月11日】
 [第4の習慣 Win-Win を考える]
 ・人間関係を築く上での基本的な考え方を理解し、勇気を思いやりのバランスを保つことの大切さを学ぶ。(Win-Win の考え方、勇気と思いやりのバランス)
 ・XYゲームを通して、Win-Win の考え方を学ぶ。

第8回【6月18日】
 [第5の習慣 相手を理解する]
 ・真に相手を理解するには、傾聴のレベルを理解し、時に感情移入して傾聴することが必要であることを学ぶ。
 ・外国人とのコミュニケーションでよくある事例、および留学時によくある事例のロールプレイを通して、その難しさを実感する。(傾聴のレベル、感情移入の傾聴、自叙伝的な反応)

第9回【6月25日】
 [第6の習慣 互いの強みを活かして相乗効果を生む]
 ・グローバル社会で重要な、多様性の中に違いを見出し、互いを尊重し、強みを生かし合いながら相乗効果を生むことを学ぶ。外国人と働く際の事例、および留学時の事例を演習として取り組む。(相乗効果、創造的な協力、相乗効果の障壁、第3の案)

第10回【7月2日】
 [第7の習慣 刃を研ぐ まとめ:グローバル社会を見据えて]
 ・自己を常に高めるための、自己管理の方法とその大切さを理解し、具体的な目標を設定する。(4つの側面)
 ・グローバル社会を見据えて、どのように意識を持つか、行動するかについて話し合い、7つの習慣をその武器としてどのように実践していくか考える。

履修条件	グローバルに活躍したい、貢献したいという意思がある。
成績評価方法	出席状況、課題提出状況、レポートの提出結果と内容によって評価する。
授業外における学習方法	授業内で学んだことをできる限り1週間以内に自分自身で実践する。その際、実践した内容を記録し、必要があれば、書籍を振り返る。
教材・参考文献	・テキストは都度ハンドアウトを配布 ・書籍「完訳7つの習慣」(もしくは書籍「7つの習慣ティーンズ」)
オフィスアワー・連絡先	質問等は随時メールにて受付
履修者へのメッセージ	グループワーク、ペアワークを多く取り入れ、学生参加型の授業が中心です。ますます変化が激しくなる社会で、国内はもとより、グローバルで活躍するための「根っこ」になる考え方を学びます。スキルやテクニックも重要ですが、それを支える「根っこ」の部分を強くしたいと思う学生さんに最適な講座です。

授業科目名	社会基礎学 II-「グローバル化」と「地方の活性化」に貢献できる輝く人材の育成:世界に挑む産業界・官界トップリーダー		
科目番号	1G26031	単位数	1.0 単位
標準履修年次	3・4 年次	時間割	秋 AB 集中
担当教員	坪内 孝司		
授業概要	<p>世界は、新興国の急成長、産業や市場のボーダレス化、ICT 等、先端技術の進歩などにより、人材・情報・資金が国境を越えて行きかっています。同時に国は勿論のこと、国内の地域や都市の間でも競争が激化しています。このため、地球環境問題や資源・エネルギー問題など、世界にまたがるグローバルな課題に的確に対処していくことが求められています。また、少子高齢化と人口減少が急速に進んでいるわが国で、豊かな生活と産業の発展の鍵を握るのは、地方の活性化であり、地方で活躍し、輝く若い人材が求められています。この激動の時代を生き抜く学生の皆さんが、「国際社会と地域社会に貢献する」という高い志を持って研鑽に励むためには、本リレー講義では、高年次の学群生を対象に、これまで学んできた教養や専門性を基礎に、社会で活躍する上において求められる総合的な基礎力や想像力、構想力、分野を超えた広い視野の向上をサポートします。講義のキーワードである、「グローバル化とは何か」、「日本国内におけるグローバル化とは」、「地域社会の発展に何が必要か?」、について理解し、様々な課題に対して強い関心と好奇心を持ち、グローバルと地方創生の時代に果敢にチャレンジし、活躍できる人材を目指すことを期待します。</p>		
備考	<p>(教育企画室企画) 10/5,10/12,11/9,11/23,12/7,12/21 【受入上限数 200 名】 12/21 は期末試験日です。</p>		
授業形態	講義		
科目群	G		
水準・区分			
教育目的			
到達目標	<p>1 社会の営み全般において密接に関係し合う、1 グローバル化と地域の日本のあり方、2 政治・政策、3 安全保障・憲法、4 経済・産業、5 資源・エネルギー、6 世界/アジア、の重点 6 分野のそれぞれにおいて、「グローバル化とは何か」、「日本国内におけるグローバル化とは」、「地域社会の発展に何が必要か?」という観点から、現代社会が抱えている問題やその問題解決のアプローチを、講義内容に即して説明することができる。</p> <p>2 前記 6 分野における問題解決が、多くの場合、それぞれの分野にまたがって広範に関連し合うことを、講義の内容に即して説明できる。</p> <p>3 社会の諸問題を解決するための方法論を提案でき、様々な分野や国にまたがる視座をもつ「グローバル人材」像を、その能力の具体例とともに説明できる。</p>		
キーワード	グローバル化, グローバル人材, 社会基礎学, 地方の活性化		
各回授業計画	<p>第 1 回【10 月 5 日 三浦 潔司 JAPIC 常務理事】 [導入講義] 連続リレー講義の意味・意義と狙い</p> <hr/> <p>第 2 回【10 月 5 日 石川 貴之 (株) 日建設計総合研究所 理事 上席研究員, 平石 和昭 株式会社三菱総合研究所 参与 プラチナ構想ネットワーク 事務局長, 三浦 潔司 JAPIC 常務理事, 坪内 孝司筑波大学 教授 教育企画室長】 [パネルディスカッション] 第 1 部 [グローバル化とは何か? グローバル化の中で日本は?] グローバル化とは何か? 日本経済の諸課題を浮き彫りにした上で、安全保障、資源、エネルギーなど様々な観点から議論を進め、日本の進むべき未来を論じる。 第 2 部 [学生は何を学び、何を身に付けるべきか?] グローバル人材とは何か? 産官学の第一人者たちが次世代のリーダーに必須となる素養について論じ、この講義で学んで欲しいことを明確化する。</p> <hr/> <p>第 3 回【10 月 12 日 泉谷 満寿裕 珠洲市長】 [さいはての地域経営] 石川県能登半島の先端に位置する珠洲市。昭和 29 年の市政発足時には人口が約 3 万 8 千人だったが、現在は約 1 万 5 千人まで減少。少子高齢化と人口減少が著しく進む中、移住・定住の促進に向けて、地域のあらゆる資源を活かし市民と行政がともに取り組む「地域経営」を推し進めてきた。さらに、珠洲市の魅力を高めるために、2017 年に奥能登国際芸術祭を開催。地方創生に向けた具体的な取り組みから、自治体行政の現状を考える。</p>		

第4回【10月12日 石崎 晶子 パシフィックコンサルタンツ株式会社 社長室兼戦略推進部】
 [自然資本を活用した持続可能な企業活動と地域のあり方]
 私たちの生活、企業活動、地域は、自然資本(生物多様性)と生態系サービスなくしては存続できない。自然資本をどのように活用するかは、グローバルが進む企業活動においてはリスクマネジメントにもなり、人口減少が進む地域では、地域創生の切り札になっている。その現状と事例を紹介しながら、皆さんと共に持続可能な企業活動と地域のあり方について考えたい。

第5回【11月9日 森 健良 外務省 外務審議官】
 [日本外交の現状と課題]
 中国が台頭し、米国やヨーロッパの政治が大きく変動する中で、我が国の外交が直面する課題について紹介する。

第6回【11月9日 十河 英史 日本製鉄(株) 執行役員 人事労政部長】
 [企業経営の現状・課題と戦略]
 本講義では、下記を中心に紹介し、日本のものづくりが目指す成長戦略について考察してみたい。
 1「鉄」という素材の多様な特性・魅力
 2 オイルショック・プラザ合意以降の超円高・リーマンショックなどの幾つもの危機を日本の鉄鋼業が如何にして乗り越えてきたかの事例
 3 今後想定される日本鉄鋼業を取り巻くグローバル化への対応・CO2問題・少子高齢化等の課題への取組み

第7回【11月23日 松尾 剛彦 経済産業省大臣官房審議官(通商政策局担当)】
 [我が国の通商政策の現状と課題(仮)]
 中国を含む新興国の台頭、デジタル化の進展等が進む中で、米中間の貿易面での緊張の高まり、ブレクジット等、世界経済の不透明性が高まっている。こうした中で、日本がこれまで講じてきた、経済連携協定等を含む通商政策の考え方や、これから取り組むべき課題について議論する。

第8回【11月23日 鈴木 敦夫 防衛省 整備計画局長】
 [日本の安全保障環境と防衛政策]
 現在、我が国を取り巻く安全保障環境は、極めて速いスピードで変化している。その中において、我が国が独立国家としての責任をしっかりと果たして行くことこそが、我が国の安全保障の基軸である日米同盟の抑止力・対処力を一層強化し、安全保障協力を戦略的に進めていくための基盤となる。特別な軍事知識等は不要。時事問題を扱いながらわかり易く解説したい。

第9回【12月7日 森 民夫 前全国市長会 会長・前長岡市長】
 [地方自治の重要性とは何か?]
 グローバルに活躍できる人材とは、同時に現場の実態等のローカルな視点を併せ持つ人材である。
 国と地方の関係も同様であり、人口減少の進行、インフラの老朽化、頻発する自然災害等の諸課題に適切に対応するためには、国によるグローバルな政策と地方によるローカルな政策との調和が必要不可欠である。この視点について、長岡市の現場に即した政策、「子育ての駅」や「アオーレ長岡」等のユニークな政策を事例に解説し、地方自治の重要性について具体的に考える。

第10回【12月7日 森 民夫 前全国市長会 会長・前長岡市長, 牛窪 恭彦 株式会社みずほ銀行 執行役員産業調査部長, 中原 淳 内閣府地方創生推進事務局審議官(併任) まちひとしごと創生事務局次長, 坪内 孝司 筑波大学 教授 教育企画室長】
 [パネルディスカッション]
 社会資本整備と構造改革から見た我が国の成長戦略

第11回【12月21日】
 期末試験

履修条件	第1回授業日の13:30から行うオリエンテーションに必ず出席すること。
成績評価方法	期末試験の結果により評価する。なお、期末試験の方法はオリエンテーションにおいて説明する。
授業外における学習方法	各講義で紹介する。
教材・参考文献	各講義で紹介する。
オフィスアワー・連絡先	
履修者へのメッセージ	各講義で紹介する。